



# 停車場通 第5号

発行：厚別中央まちづくりセンター（厚別中央4条3丁目3-6 ☎891-3907）

## 町内会のはなし（その2）

### ひばりが丘団地の造成

旭町にあった国鉄所有の練成農場（旧馬場農場の一部）跡地への、昭和33年から始まるひばりが丘団地の造成は、その後の開発を含め、厚別に急激な人口の流入をもたらし、町内会の組成を大きく変えます。現在、厚別区には74の町内会・自治会と、6の連合町内会・自治会がありますが、本号と次号では、厚別中央町内会連合会に属する9の町内会を簡単に紹介します。

各町内会の区域については、まちづくりセンターへお問い合わせ下さい。

カッコ内の数字は、平成18年1月1日現在の町内会加入世帯数及び加入率（推定）です。

### 厚別中央振興会（3,358世帯、67%）

市内最多の世帯数を有する町内会。現在の町内会名となったのは、昭和57年の住居表示の実施に伴うもので、これまでも東区振興会、東町振興会など、行政上の呼称とともに名称を変えてきました。



厚別川から野津幌川までのJR函館本線の南側に位置し、厚別の中では最も早くから開けた地域です。村社としての信濃神社や113年の歴史を刻む信濃小学校、市内では4番目に古い厚別駅、駅開設の翌明治28年に設置された厚別巡查駐在所（白石駐在所の設置は大正4年）のほか、旅館、雑貨店、味噌・醤油・酒工場などもあり、長い間、まさしく厚別の中心として多くの人々が往来していました。

### 旭町町内会（1,046世帯、67%）

旭町町内会は、広島街道（現上野幌中央線）の起点からJR千歳線ガードまでの国道12号線を挟んだ区域です。



旭町の開拓は明治20年に始まりですが、同22年の江別街道（国道12号線）の開通により町は発展します。街道沿いに札幌市周辺では最も早くに郵便局が設置されたり（明治29年）、従業員数170余人の日本製絲(株)厚別製線工場が、現在のひばりが丘に設置される（大正5年）など、旭町十字街（国道12号線と停車場通との交差点）付近は、副都心が整備されるまでの間、駅周辺とともに厚別の

中心としての役割を果たしてきました。

なお旭町の名は、国道 12 号線沿いに松の大木がありその付近を「朝日松」と呼んでいたのが由来とされています。

#### 下野幌町内会（907 世帯、95%）

激しく変遷してきた町内会で、現在は、南郷通から国道 274 号線までの J R 千歳線と野津幌川に挟まれた区域です。



下野幌の開拓は、明治 18 年に始まります。前号でも触れたように、元々はテクノパーク、もみじ台から青葉町を含む広大な区域を有していましたが、大規模団地の造成や民間住宅の開発・分譲により、次第にその区域を狭めてきました。すなわち新住民による町内会の創設や、「自分たちの町内会を」と下野幌町内会からの分離・独立です。

まず、青葉町団地の造成により、団地内にみどり会（昭和 41 年）が創設されます。続いて四ツ葉会（42 年）、白樺会（43 年）、紅葉会（43 年）、若葉会（43 年）、青葉会（44 年）が次々と結成されます。そして、青葉町団地住民だけの自治会である青葉町自治連合会が 44 年に誕生します。さらに、この年からもみじ台団地の造成が始まり、48 年、もみじ台自治連合会が結成されます。

一方、青葉、もみじ台の両地区以外では、ひまわり会（53 年）、下野幌東町内会（51 年）、下野幌中央町内会（55 年）、もみじ台通り町内会（60 年）が新たに結成されます。これらのうち下野幌中央町内会以外は、現在、厚別東町内会連合会に属しています。

また、当初は下野幌町内会として活動を共にしていましたが、その後、分離・独立した町内会として、厚別東イトーピア町内会（昭和 62 年）、厚別東高台町内会（平成 8 年）、青葉 13 町内会（平成 8 年）、新さっぽろ町内会（平成 13 年）があります。

#### 下野幌中央町内会（168 世帯、99%）

野津幌川と下野幌線に挟まれた一画にあり、昭和 52 年、民間ディベロッパーにより開発、分譲された区域です。



昭和 54 年 9 月に最初の入居があり、住民が増えるに従って、生活環境面の不便さ（ごみ、夜間照明、住居案内、バス停等）が問題となり始め、町内会設立の機運が高まり、昭和 55 年 6 月 1 日、91 世帯により発足しました。

#### 新さっぽろ町内会（615 世帯、93%）

平成 13 年、南郷通を境に下野幌町内会から分離・独立し、まだ 6 年目の新しい町内会です。町内に新札幌副都心を抱え、人や車の往来が激しいですが、住宅は主に野津幌川西側に広がり、閑静なたたずまいを見せています。



（次号につづく）